



# 青森県議会 ニューズレター



# 支え合う 共生社会

## 大規模災害への備えをさらに

米国海軍所属の病院船マーシーが日本に初寄港しました。7万トンのオイルタンカーを改造した世界最大級の病院船マーシー船内には、手術室や集中治療室のほか1千床のベッドが配備されています。手術用ロボット「ダ・ヴィンチ」といった高度医療機器機能も備え、まさに動く総合病院です。スマトラ島地震の負傷者救援活動にあたるなど、災害救援や人道支援の国際貢献活動もおこなっています。米国が中心となり、国際機関やNGOの協力のもと、参加国との災害救援活動の円滑化を図る活動として「Pacific Partnership」がおこなわれています。「Pacific Partnership 2018」には自衛隊も参加し、今回の日本初寄港に際し、日米共同災害医療搬送訓練もおこなわれました。



2面

### 災害時多目的船導入へ 民間船舶活用を



3面

### 命を守る高規格道路網 整備を促進



4面

### 支え合う社会へ 支援拡充を

青森県議会議員

# いぶき信





# 災害時多目的船導入へ民間船舶活用を



四方に海を擁する海洋国日本でも、大規模災害時に被災傷病者の救急救命医療が提供できる、災害時多目的船導入が待ち望まれています。

青森県内には、災害時対応を想定したフェリーを建造し、運航しているフェリー運航会社もあります。私は総務企画危機管理委員会で、「青森県地域防災計画」に民間船舶の活用を明記するよう計画の見直しを要望しました。国の災害時多目的船導入にむけ、まずは民間船舶との連携強化に取り組んで参ります。

## 支え合う安全安心の街づくりを

### 学校施設の安全総点検を実施

大阪北部を震源とする震度6弱の地震が発生し、家屋損壊のほか死傷者を出す被害に見舞われました。違法建築物が原因のコンクリート塀倒壊事故により女子児童が犠牲となる事故が発生。直ちに県知事と県教育長に学校施設の総点検と、通学路安全総点検の実施を要請し、青森県内すべての学校で施設の安全総点検がおこなわれました。



### 「青い森のセーフティネット」活用を

詐欺事件や不審者による児童生徒等への連れ去り事件を予防するため、青森県警察本部が実施している事件・事故情報配信サービスを利用していただきたいと思います。メールマガジン「青い森のセーフティネット」は、2004年3月12日予算特別委員会の私の提案を受け、2005年12月27日に導入された「子どもを守ろう口コミメルマガ」が、2007年10月に「青い森のセーフティネット」と改称され現在に至っているものです。県警察が配信する情報を知ることにより、事件や事故に巻き込まれないことが大切です。ひとりでも多くの県民にメールマガジン「青い森のセーフティネット」の活用や、ツイッターアカウント@AomoliPoliceのフォローをお奨めしたいと思います。



「青い森のセーフティネット」  
登録はこちらから



青森県警察本部のTwitter公式アカウント



## 石井国土交通大臣が視察のため来県

石井啓一国土交通大臣が  
公務視察のため来県。

2日間にわたり青森港や弘前公園、  
津軽自動車道等7箇所を  
視察していただきました。

今回の国土交通大臣公務視察は、県内高規格道路網整備促進を要望するなかで、私が以前から大臣に要請していたものです。

青森港では青山副知事、小野寺青森市長からクルーズ船をはじめインバウンド旅行客増加にむけた取り組みについて説明を受けるとともに、新中央埠頭旅客ターミナルや沖館岸壁整備等青森港の防災機能強化と国際港湾にむけた整備計画を視察していただきました。



### 津軽自動車道 早期完成へ現地視察

国直轄事業で整備が進められている「津軽自動車道」の柏・浮田未着手区間を視察した石井大臣は、五所川原市内で沿線自治体で組織する「津軽自動車道建設促進期成同盟会（会長 平山五所川原市長：当時）」メンバーと面会し懇談。一日も早い工事完成にむけた要望を受けました。



### 下北半島縦貫自動車道 早期完成へ熱烈アピール

国の交付金を活用し県事業として整備が進められている「下北半島縦貫自動車道」では、「下北未来塾（清川わか塾長）」の皆さんが石井大臣を熱烈歓迎。行政とともに早期完成を要望してきた清川わか塾長は、現地に大臣をむかえることができた喜びを伝え、早期完成にむけた国の支援を要請しました。



### 上北天間林道路完成へ現地視察

青森県は人口20万人以上の主要都市が、依然として自動車専用高規格道路で繋がれていません。「みちのく有料道路」に繋がり八戸市と県都青森市を結ぶ「上北天間林道路」の完成が待ち望まれています。視察現場では小又勉七戸町長、蛭名紘治東北町長から石井大臣に要望書が手交されました。



# 支え合う社会へ支援拡充を

## 慢性疲労症候群対策支援を要望

CFS（慢性疲労症候群）支援ネットワークの石川真紀会長をはじめ代表の皆さまとともに、医療現場と教育現場での慢性疲労症候群についての情報共有と支援体制構築にむけた県の取組みを要望しました。

5月12日の「ME（筋痛性脳脊髄炎）/CFS（慢性疲労症候群）世界啓発デー」イベント参加のため来県された、関西福祉科学大学の倉恒弘彦教授（医学博士）にも同席いただき、医療現場の視点から意見を述べていただきました。



## 危険を知らせるハザードマップ理解が必要

「平成30年度7月豪雨災害」が発生。西日本全域におよぶ広範囲にわたり、過去に例を見ない豪雨災害に見舞われました。河川決壊による土砂災害がハザードマップの被害想定と同様だったことから、改めてハザードマップに基づく避難行動の重要性が指摘されています。市町村では、洪水・内水・高潮・津波・土砂災害・火山災害発生時の被害想定地図（ハザードマップ）を公表配布しています。日頃から居住地域の被害想定を確認し、早期避難の判断に役立てていただきたいと思えます。

気象庁では、河川の洪水危険度をリアルタイムで予測する「洪水危険度分布」の配信を昨年からはじめています。気象情報への関心をもつていただくことが、危険から身を守ることに繋がりますので、是非気象庁ホームページへアクセスしてみてください。また民間のジャパンホームシールド株式会社が提供している「地盤サポートマップ」も参考情報としてご覧いただくことをお奨めしたいと思います。

「平成30年度7月豪雨災害」では、バケツをひっくり返したように降り続いた記録的豪雨により、防災行政無線が聞き取れなかったことも避難の遅れに繋がったと言われています。核家族化や高齢者世帯の増加をふまえ、多様な情報伝達手段の確保が重要です。エリアメールの積極的活用や、全国瞬時警報システム（J-ALERT）の緊急情報等を強制起動し放送する「緊急防災ラジオ」の普及に取り組んで参ります。



## あおり藍苗植え体験会に参加

北前船により徳島から海路運ばれ、青森県の藍染め産業を支えていた「あおり蓼藍」を現代に蘇らせようとの取組みが、「あおり藍産業協同組合（吉田久幸理事長）」により進められています。

ケールや若葉の4倍のポリフェノールと、ブルーベリーやほうれん草の5倍以上の高酸化力に富み、コレステロール低減効果や解毒、解熱作用といった効能が知られています。

大学や研究機関連携のもと、藍の機能性解析研究が進められており、農商工連携による6次産業化が大いに期待されています。北前船が育んだ藍産業を現代に蘇らせるロマン溢れるあおり藍の産業化を支援して参ります。



発行者・  
連絡先

青森県議会 公明・健政会  
県議会議員 伊吹信一

TEL/FAX 017-722-6148 URL <http://www.ibukista.com>

@ibuki\_shinichi

@shinichi.ibuki9

@hmw5037e

